

対談 日韓関係の「いま」を考える

韓流、歴史対話 そして市民の役割

朴一さん 大阪市立大学大学院教授 × 小倉紀蔵さん 京都大学大学院准教授



11月28日収録 進行：金光敏・コリアNGOセンター事務局長

12月17日、李明博韓国大統領が来日し、野田佳彦総理大臣との間で韓日首脳会談が行われる。折りしも韓流が空前のブームでもあり、韓日のこれからの協力関係の重要性が大きく取り上げられている。

一方、両国の間に政治懸案も少なくない。歴史教科書問題、独島問題、また従軍慰安婦問題などだ。政府が友好関係を演出すればするほど、それとは比例して問題も目立ち、韓日がいかにそれらを乗り越えようとしているのかに注目が集まる。

こうしたなか、朝鮮半島問題に精通し、独特の視点からの分析と論考を繰り広げている朴一・大阪市立大学大学院教授と、小倉紀蔵京都大学大学院准教授に、韓日問題の今、そしてこれからを、語っていただいた。お二人に、韓流ブームに対する評価、歴史認識をめぐる考察、在日、日朝関係など尽きぬ話題で対談していただいた。韓日関係は「くくりで語れないほど多様化し、多角化している」との共通の視点が明らかとなった。

お二人の直接の関わりは？

朴 先日、私の近著『僕たちのヒーローはみんな在日だった』（講談社）について書評を書いていただきました。

小倉 本屋に行くと、平積みになっていきますね。

朴 関西でよく売れているんですよ。でも、東京ではまったく売れない。どうしてでしょうね。面白いのは水商売の近くの本屋さんでよく売れていて、ホステスさんに圧倒的な人気なんです。よくサインを求められます。たぶん本で紹介している人物すべてを私の知り合いだと勘違いしているからでしょう。

韓流ブームについて

小倉 日本社会に対する不満や物足りなさが反映されていて、それが背景にある限りは、韓流ブームは続くんじゃないでしょうか。いま韓国が魅力的に見えるということですね。民主化した勢いや、ダイナミズムとなって

韓国を世界に打って出させる原動力につながっている。それが大衆文化とつながり、ドラマや映画に描き出すストーリーの面白さと、そこに登場する人々、そしてそれを製作する人々を魅力的に感じさせているのでしょう。これは一時的なブームとは思えない。

人間が主体的に運命を乗り越えて未来を切り開いていくという、そういうタイプの人間像が韓国ドラマなどに頻繁に描かれています。日本のドラマには見られなくなったストーリーです。もちろん、かつて日本社会がモダンな時代にはそういう人たちがいっぱいいた。未来に向け自分一人の力で立ち上がった、のしあがったりです。

私が生きている頃は、そうした精神が素晴らしいものとして教育や家庭、メディアでとりあげられていましたが、いつしかそういうものが目立たなくなりましたよ。そこに思っています。そこに非常に物足りなさを感じる日本人が多くて、そういう主人公やドラマが朝鮮半島から来たということではないでしょうか。

ダイナミズムや面白みがないという今の日本社会の閉塞感と、韓国への関心が非常によくつながっていると思います。閉塞を打開できる人間像が日本社会に見つけられないでいるのではないのでしょうか。

韓流への反応は、最初、中高年の女性たちでした。彼女らの若いころには、モダンな人間像がかなり注入されていて、文学作品や映画でもそうした存在が多数取り上げられていた。でも、そうした人物像が取り上げられなくなっている。

ポストモダンの時代になり、人間性や主体性が問われないものが多くなり、そこに飽きていた人々が韓流に走ったのではないかと。

また、K-POPは若い女性が大きな存在感を示していますが、私の大学でもそうですが、男子学生より女子学生のほうがずっと主体的です。留学のための面接ともなると、ほとんど女性です。女性のほうが自己実現への意欲や、自分でどうやって運命を切り開くのか、非常に関心が強いように感じます。そう

した女性が日本の俳優や歌手よりは韓国の女性グループに反応するのは当然のことだと思つ。自分たちで世界に打って出ようということに、かつよさを感じているのだと思います。

朴 韓国の市場は狭い。当然、韓国が生き残るためには、海外に向けて商品をつくらざるを得ません。

一方、日本は国内市場で一定は賄える。日本向けの商品で運がよければ海外にも展開を、というわけです。先日も中国で人気のある外国人ベスト10が発表されました。1位から8位までは韓流スターでした。9位にようやくキムタクが入りました。ある中国朝鮮族と話していたら、キムタクだから、あの人も在日じゃないかと。それはちがうと言っておきましたが。

韓国は海外で勝負できなければ生きていけない。韓国人の留学生が多いのは、そのためだと思います。日本の学生は留学しないし、できない。就職活動が早く、大学3年生から就職探しで忙しくて、留学どころでは

朴一（ぱくいる）

同志社大学大学院博士課程修了(商学博士)、立正大学経済学部専任講師、大阪市立大学経済学部助教授を経て、現在、大阪市立大学大学院経済学研究科教授。地方自治体の各種行政委員を歴任。

主な著書『韓国NIES化の苦悩』同文館(1992)、『アジアNIES』世界思想社(1994)(編著)、『在日という生き方』講談社メチエ(1999)、『転換期のアジア経済を学ぶ人のために』世界思想社(2000)、『朝鮮半島を見る眼』藤原書店(2005)、『在日コリアンってなんでんねん』講談社プラスアルファ新書(2005年)、『僕らのヒーローはみんな在日だった』講談社(2011年)



良かれ悪しかれ韓国のプレゼンスが日本で高まり 社会全体がその存在を無視できなくなっている(朴)

ない。がんじがらめの内型社会に追い込まれていて、活力がそぎ落とされている。ただ、そんな中でも女性のほうに、外に出て行きたいと考えている学生が多いのではないが、韓流はそうした中から生み出された海外向け商品なのです。

しかし全体的に見てみると、韓国の商品を日本で売るのがたいへん苦労しています。韓国の現代自動車は世界展開していますが、大阪では中央区のスインタワーのショールームも、泉大津の販売店も撤収してしまいました。韓流にとっても、世界でもっとも難しい市場が日本ではなかったかと思っています。

小倉 韓流も輸出用であることは同感です。ただ、韓流は商品ではなく、人間の魅力で売っていると思います。それを作り出す土台があり、それを生み出す

韓国人の持つメンタリティが生かされています。与えられた運命や環境に順応するのではなく、そこでどうやって人間の主体性や自分なりの人生をみつけていくのかという世界観に、大衆文化の形式がびつたりはまったのではないかと。キーワードは、自らの運命を自らが導き出す主体性ではないか。

日本の大衆文化はポストモダンです。逆にそれに魅力を感じている人々が韓国や中国、アジアに結構いて、競争一辺倒で翻弄されて自尊心が傷ついて、うんざりしている人たちが日本の大衆文化に惹かれているという点もある。互いに探しあっているということなのでしょう。

朴 良かれ悪しかれ韓国のプレゼンスが日本で高まっています。やっぱり社会全体が韓国の存在を無視できなくなっています。

る。私が最近、メディアの中で少し疲れてきたのは、私が出る番組で、例えば領土問題などを論じますと、ディレクターが言うわけです。とにかく韓国側の立場から竹島は韓国領だと叫んでください。そうすると誰々が叫び返しますので、と。

こんなことやっつてられんなあと。いくらもない出演料もらって、その都度学長に呼び出されてですね。ただ、韓国の立場を説明する役割はいるわけです。日本側の一方的な主張のみならず、韓国の主張も出揃うことで、バランスが保たれる。その上でどのように歩み寄るのか、未来志向的な議論につながればと、努力しています。

最近、多様な意見に耳傾けるメディアの役割が軽視され、視聴者のナショナルリズムを利用するよつな内容がメディアから垂れ流されることが多くなっています。



小倉紀蔵

東京大学文学部ドイツ文学科卒業、電通社員を経て、韓国留学。

ソウル大学校哲学科博士課程単位取得(東洋哲学) 東海大学外国語教育センター助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科助教授を歴任し、現在、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授

主な著書に『韓国は一個の哲学である』講談社現代新書(1998)『韓国、ひき裂かれるコスモス』平凡社(2001)『韓国、愛と思想の旅』大修館書店(2004)、『歴史認識を乗り越える』講談社現代新書(2005)『韓流インパクト』講談社(2005)

います。ある種、右に対する左の力が相対的に低下していることによるためでしょうが、論壇ではそれがより顕著で、左派の言論空間が縮小し、多様な意見を論じ合うことで拮抗させてきた社会のバランスが急激に衰退してきました。

韓国ではそれがまだ成立していませんので、その部分ではまだ韓国のほうが健全ではないかと思えます。

先日、フジテレビ前で行われた韓流ドラマの放映に反発する人々のデモがありました。

小倉 韓流ドラマを大量に流しているフジテレビに、彼らは顔をさらしてデモをしました。単なる嫌韓流の電子空間での匿名の誹謗中傷ではなく、もっと独自の番組制作を行え、自分たちも努力しろというものだと思え止めました。もちろん、保守的

な立場からの主張もありました。韓国のコンテンツに依存することで、韓国に物言えなくなるのではないかと。歴史問題などで、頭があがらなくなるのではないかと。

こうしたナショナリズムの問題も、あるとは思いますが、韓国にもスクリーンクォーター制があり、自分たちの独自の市場を守るという発想は特別珍しいことではありません。それは実は文化を守るという意味でもあり、スクリーンクォーター制により韓国の映画産業は守られてきたという側面からいえば、あのデモについて否定的捉え方は拙速な気がします。

朴 1998年まで韓国は日本の大衆文化の輸入を禁じていましたし、日本も韓国に対して政策的に実施するということ、私はありだと思えます。

ただ、テレビ局はやはり視聴

率優先で、視聴率が取ればそれでOKなんです。韓流ドラマの中にも、たいした内容でないものもあります。すべてが運命を乗り越え未来を切り開く内容ばかりではない。でも、安い料金で放映権を買い取ったドラマが夜中の2時、3時に一定の視聴率が取れるとすれば、この放送局でも放送するでしょう。そこを責められる筋合いはないというのが、放送局の本音ではないでしょうか。

一方、アメリカのドラマが日本の放送枠の何割かを占めたとして、デモは起こりますかね？やはりどこか「韓国」のものであることに対するある種の反発があるのではないかと思えます。

小倉 日本には今、余裕がない。抗議デモする人たちは切羽詰った人たちではないか。あそこでデモした人たちは、韓国の

韓国のダイナミズムに魅力を感じる人が増える一方で
日本社会の余裕のなさが韓国への批判意識にもつながる(小倉)

より幅広い歴史教育をおこなうことで

対立を超えて、平和構築と共同利益の追求を（朴）

存在がとて大きく見えているのではないか。

日本と韓国の関係で考えれば、韓国側が日本について物申すというのが、言わば常態化してました。だが、あのデモは日本社会の中に韓国に反応する人々が増えていて、ネット空間で匿名で誹謗中傷をするのではなく、表に出て韓国について自分たちの主張はこうだと。韓国の市民デモにあらわれる意思表示と似てきていて、それはそれで健全ではないかと考えるのです。

朴 ヨーロッパ、北米、南アジアにいけば、ソニー、日立、パナソニックを凌駕してサムソンが存在感を見せています。日本のエコノミストの中には、サムソンの躍進はウオン安誘導によるもので、製品開発の優位ではないと評したりする人がいま

す。しかし、それは正しくない。授業の一環でサムソンのショールームに学生らを連れて行くと、商品の斬新性や技術力、価格帯に大きな驚きを示します。韓国製がここまで来ているのかと。

さらに韓国はFTAでヨーロッパや北米で競争力をつけていきます。その上に韓流で、日本の国内まで進出してくるとなると日本にとって脅威に映るのは仕方ないことかもしれません。そうした観点に立てば、あのようなデモを起る背景についてわかるような気はしません。

小倉 やはり日本社会に余裕がなくなっていることと密接につながっていると思います。

朴 私は、ドラマがとても好きで、かつてドラマ作家になりました

いと思ったほどです。1970年代に山口百恵さんの赤いシリーズがありましたよね。あのシリーズなどは明らかに運命を乗り越え未来を切り開く作品です。韓国のドラマ界は、日本のあの当時の作品を研究しているのではないのでしょうか。他にも3年B組金八先生なども、その部類に入るのではないのでしょうか。まさに他者の心に入り込むような言葉の応酬、韓国ドラマの特徴です。特に、金八先生などはキン、パチで、在日を思わせるような（笑）

韓流ドラマの源流に日本の作品があるのではないか。これが成熟し、技術も進むと言葉ではない描き方が生まれてくる。いまの日本のドラマのようになっていくのではないかと。日本の進みすぎたドラマについて、見る側は韓国ドラマで原点に戻っているのではないのでしょうか。

小倉 赤いシリーズなどは捨て子という境遇であったり、病を抱えていたり、主人公がマイナスからゼロ、そしてプラスに転換するのとかという内容でしたね。まさに韓流ドラマに出てくる主人公の背景設定です。

朴 韓国は植民地、分断、独裁、民主化、こうした社会矛盾が、ドラマが描かれる精神世界の背景となっている。日本では安保闘争以降、ドラマチック性が弱くなってしまったように思えます。

一方で、在日の作家の作品がなぜよく売れ、評価されるのか、被差別の経験、マイノリティとしての独特の社会体験が作品の背景に生きているためではないかと思つのです。

小倉 人間が生きていている時代性ってあると思います。日本だったら、団塊の世代の人たちがそうだったのでないだろうか。プレモダン、モダン、ポストモダンが肉体化した世代です。時代状況がこちゃませに



なっていることが表現の質や興行きを与えているのではないかと思いますね。

これからの韓日関係

朴 小倉先生の著書『歴史認識を乗り越える』（講談社現代新書）を読んだのですが、ここでは過去の歴史とどう向き合うかということがモティーフになっています。教科書問題についても触れておられ、日韓問題を考える上で切り口になると思いますが。

以前、小泉さんが首相在任中に韓国を訪問した。視察に立ち寄った旧西大門刑務所でおこなった演説内容を小倉先生は評価しておられます。ところが、当時の報道では小泉演説の「互いに反省すべき」という部分のみ強調されて、それに韓国社会が反発、小泉演説は評価されるどころか批判にさらされた。

しかし、演説の全文を読むと、結構いいことを言っている。小泉さんはその中で、日韓の歴史共同研究を提起し、この研究によって韓日の歴史和解へのきっかけづくりができるのではないかと期待は高まりました。しかし、残念なことには日本も韓国も、委員として選ばれたのは、それぞれのパーチャルヒストリーを重視する人々であり、当然、そこで持論を展開するわけですから、意見差異が狭まるはずがない。

それはそうでありながらも、日韓歴史共同研究のもたらした功績としては、相互の歴史、あるいは歴史観を知ることに関心を集めたということだと思います。たとえパーチャルヒスト

リーであつても、それが誕生した背景を知ることとはとても重要です。

それから第一次教科書問題が起こったことを受け、教科書検定に関わり日本政府は「近隣諸国条項」を設けました。これは日本の教科書に近隣諸国、主には韓国や中国に配慮するというものです。

しかし、日韓歴史共同研究において、韓国の歴史教科書に日本側が要望することができるようになりました。韓国の歴史教科書に「村山談話」や「憲法第9条」を載せてほしいというものです。これはこれで双方の歴史的相克を超える大きな進歩ではなかったかと思えます。

小倉 国民国家を築いて行く上で、特定の歴史観が生まれ、パーチャルヒストリーが生み出されている過程は、一定ありうることで、避けることはできません。ただ、それがただ一つ正しい歴史だとすると接点は喪失してしまいます。お互いがどのような歴史をつくらうとしているのかを知ること、そしてそれ

についてある程度自由に批判ができることは非常に大切なことです。

先日、亡くなった元東亜日報社長の権五琦（クオンオギ）さんは朝日新聞の若宮啓文さんと対談した『韓国と日本国』（朝日新聞社）でそのようなことを言っておられ、韓国人が真摯に自分たちの歴史認識や歴史の作り方をもっと反省すべきだと語っています。

同時に、日本側もまたそれに対する理解が求められます。歴史も実証主義だけではなく、歴史をどう見るかということが重要ですから、学生たちにはそうしたことを教えて行きたいと考えています。また、韓国は統一の課題がありますので、歴史観が完結するわけではありません。それぞれの歴史観について、それが双方にとつてどのような意味を持つか、そうした観点からときに批判しあうことは許されるべきだと考えます。

朴 韓国は南北間における歴史認識の乖離もあります。歴史教科書における両論併記を容認す

いまや日韓関係は多様化しており

政治や外交によってすべてが左右されない（小倉）

幅の広い歴史教育を行うことをもつと積極的に受入れていいのではないだろうか。領土問題についても、韓日での主張を書き込み、その上で平和、双方にとっての利益に何が必要かを子どもたちが考えるのです。

小倉 ただ、国民国家の歴史観を抱えてしまっている人々にとつてはそれが難しい。日韓に朝鮮民主主義人民共和国も含めた三国のうち、もつとも国家からの自由があるのは日本だと思つので、日本の市民社会が率先して三国の歴史観を併記するような教科書を作り出していいのではないか。

正直、日韓に横たわる領土問題や、戦後処理の問題も、日本社会のどれだけの人々に関心があるでしょうか。また、日本の中にも多様な歴史観があり、日本人だから日本の、韓国人だから

ら韓国の、それぞれの国民国家の立場からの発言しかできないということをかき乗りに越えて行くのが、大切なことだと考えています。

朴 日本には竹島が韓国のものだと主張する学者がいる一方で、韓国に独島は日本のものだと主張する学者はほとんど見当たりません。小倉先生が書籍でそのことに触れていました。たしかに考えてみると、それは多様な歴史観という点で、若干異様な感じもします。

一方、2003年から韓国において教科書検定制度が始まり、検定に合格した教科書を選択できるよつになりました。高校で韓国近代史では4社が検定に合格したのですが、そのうちのひとつに植民地近代化論について肯定的に触れたものがあります。植民地支配時期のイン

フラが解放後の韓国近代化にブラスになったと。そうした意味で、韓国国内も成熟を重ねることで歴史観に多様性が生まれつつあるのではないかと思えます。

小倉 本当は、歴史が重要ではなく、政治が重要なんです。歴史とは政治に従属させられてしまつので、政治が不利になるような歴史を語ることはなかなか難しいわけです。そうした中でアカデミズムが重要だと思えますし、歴史学者の役割が大きいです。ただ、日本のアカデミズムは最近そうした役割や使命を放棄してしまつているような印象です。そうした中で加害の歴史や国民国家を乗り越える歴史観を打ち立てる発信は、いつそう難しくなつていくでしょう。

2012年は韓日にとつて政

治的変動期を迎えます。それがどのような影響を与えるでしょうか？

小倉 日本と韓国との間で完全なる対等はないと思えますが、かなりの分野で対等性が生まれてきたように思えます。だからゆえに歴史問題でも多様な対話が広がつてきた。日韓関係において、全般的な、という取り扱いはあまり意味がないように思います。新聞の見出しなどで「日韓関係が悪化した」といつても、それは首脳同士のことであり、市民レベルまで全面的に悪化したわけではない。2005年に教科書問題や領土問題で日韓関係は揺れましたが、その一方で、日韓友情年の取り組みが同時進行で行われ、さまざまな交流事業が実施されました。

つまり日韓関係は多様化し、いたるところに日韓関係が存在し、個人レベルでも日韓関係があるのです。政治や外交によつてすべてが左右されることはありえなくなつていきます。

一方、かつては韓国における



様々な問題の解決策を日本の事例から学ぶということが一般的でしたが、いまでは日本における問題の解決策を欧米から求めるというだけではこと足りなくなつて、韓国から参考に引き出し、ヒントを導き出す時代にもなつてきている。

朴 基本的には国対国の関係から、地方対地方、釜山と大阪、濟州道と大阪が、という関係が大切ですね。基本は国際外交ではなく、民衆外交の時代になつてきていると思います。若い人がその担い手となつてほしいと願っています。

私たちが在日はそうした民衆外交にとつて、日韓のバーチャルヒストリーから距離を置いて論じられる最も有利な立場ではないかと考えています。日韓の間で揺れ動いてきたからこそ葛藤があり、悩みがある。

その地点から日韓の課題や展望を独自の観点を見つげ出すことができるのだと思います。国家と民族を峻別して考える存在であるというのが在日の可能性だと考えます。

小倉 韓流ブームを考える上で、本当はもっと在日コリアンが活躍できる、してほしいという思いがありました。しかし、在日の頭を超えて日本人が韓国に暮らす人々と直接対話してしまつという格好になりました。韓流が、在日への関心につながらないもどかしさ。そうしたことを語る声も聞いています。

在日は日韓を相対化できる可能性があると思うのと、日韓の間で置いてけぼりになつていくと捉える人と。あるいは、在日の若い人々の中には、日韓の架け橋にと言われても、という人

もいます。

朴 在日が持つ韓流への捉え方も多種多様で、日韓問題への関わりも多様化しているというところだと思えます。

小倉 韓流ブームを背景にして日韓関係はあまり心配していません。ただ、これから日朝関係がどうなっていくか。政治や外交に進展が見られない場合、文化の力で日朝間の対話や関係改善の糸口みたいなことが探し出せないかと考えています。文化や学術が果たす日朝関係における役割を重要視したいと思っています。

朴 2000年の南北首脳会談は、日朝関係を大きく前進させる絶好の機会になつたと思います。その後、小泉さんの訪朝もありました。しかし、その期待は完全に崩れてしまいました。拉致問題が日本社会に与えた嫌悪はかなり深刻で、それが払拭させるまでかなりの時間がかかるのではないかと思います。

一方、朝鮮半島に関わり、いい面、悪い面の両方を受け止めて

行くことが日本社会に求められている。それはどの国との関係においても必要なことです。歴史はきれいなものばかりではない。日米関係や日中関係においても被害や加害の両方がある。拉致事件の解決が日朝間のすべの入り口であるとする考え方は、逆に選択肢を狭めてしまつことになりはしないかと危惧します。

小倉 中国は核兵器も持っているし、一党独裁の国です。しかし、それが理由となつて日中間の市民交流が阻害されるということは聞いたことがない。

ただ、北朝鮮とはすぐに行き詰つてしまふ。政治の課題を別個にした市民どうしの交流が常に開かれているべきです。日朝関係においては、国家と市民を分けて考える視点が弱い。そうした意識は政治だけでなく、マスコミも弱く、それは深刻です。だからゆえにアカデミズムの世界が、その部分を牽引する役割を担うべきではないかと考えます。